

# 平和求めた 思想に迫る

## 東京 安達峰一郎生誕150年シンポ



の役割を果たしていくことが求められている」という認識に変化していったと解

山辺町出身の国際法学者、安達峰一郎の生誕150年を記念したシンポジウムが15日、東京・麹町で開かれ、国際協調に基づく平和を求めた安達思想に迫った。

主催者を代表して、安達峰一郎記念財団の鈴木正貫理事長が「安達博士は外交官、国際連盟の日本代表、国際法学者として、国際社会はどうかあるべきかを追求した。思想と行動、現代社会における意義について理解を深めたい」とあいさつした。

国内外に散在していた著述や講演をまとめた、著作選の編者を務めた柳原正治放送大学教授が基調講演を行った。柳原教授は安達の国際法の捉え方について、欧米諸国と不平等条約を結んでいた日本が大国になるための「道具」という認識から、第1次大戦後は「世界に平和をもたらすための」もので、日本はそ

### 青パト隊強化など 19年度計画決める

#### 県警友会連合会総会

県警OBでつくる県警友会連合会(榎野和男会長の定例総会が15日、山形市の山形グランドホテルで開かれ、地域の見守りや広報強化などを盛り込んだ2019年度事業計画を決めた。



安達峰一郎の行動、思想を考えたシンポジウム  
—東京・麹町  
さらに安達が目指したのは「国際社会の現実在即した国際法」だとし、「それぞれ国家の利益との相克の可能性を踏まえつつ、国際平和をどのように実現していけるのかを考えていた」と強調。「現代の学者、外交官、政治家にとっても大きな課題」と指摘した。

山形大の北川忠明教授らによる個別報告が行われたほか、パネル討議では国際社会の混迷と国際法の役割について議論を深めた。  
(伊藤英俊)

19年度は、青色回転灯を付けた車両で地域を見回る「青パト隊」の活動を強化し、機関紙「警友」などで警友会の取り組みを周知することなどに力を入れる。榎野会長は「地域の安全を脅かす犯罪などを防ぎ、積極的に情報も発信していく。創意工夫によって、活動の活性化も図っていきたい」とあいさつした。

任期満了に伴う役員改選では榎野会長と副会長の高橋喜八、今野哲朗、佐藤和雄の3氏を再任し、吉田敏雄、島津光男両氏を副会長に新任した。会員約120人が出席。松尾剛次山形大名誉教授による基調講演も行われた。  
(小池拓海)

2019年度の事業計画を決めた県警友会連合会の定例総会  
—山形市